

ひとを育てる活動

CMIP 奨学生近況

－ 初等教育 －

「どの子どもも、小学校だけは行かせてあげたい」

前号 P1 の小学生の支援者募集呼びかけに、10 人面倒みますというご連絡を会員からいただきました。自分は勉強したくても学校に行かせてもらえなかった。元気なうちは支援を続けますとのお申し出です。

これまで特定支援者がいなかった子どもたちへは、一般寄付等を充当しながら前期分を支援しました。後期奨学金の送金時期になり、資金のやり繰りに頭を悩ましていた事務局としては大変心強いです。

10 月 25 日に CMIP 奨学生の現況報告が届きました。欠席が続いているルタイ小 2 年のロエルを除いて、小学校在学の奨学生 33 名は全員、前期末テストで及第点を取りました。

－ 中等・高等教育及び卒業生 －

「残念です！」と、エドナの中退を知らせてきたのはクリニック責任者ジョジョさんです。2 年余り親身に面倒をみてきて、復学間もないエドナの結婚・中退は衝撃だったようです。監督不行き届きでと、特別医療支援を続けた当会へのお詫びの言葉もありました。前号でハイスクール 3 年への復学を伝え、笑顔の写真に掲載したばかりですが、結婚という形であれ、精神的疾患を克服して社会復帰できたのであれば祝福すべきことかもしれないと、ジョジョさんに前向きに伝えました。2 年間の休学で、授業に付いていけなかったのも一因のようです。

9 月にはエドウィン神父から、ハイスクール 2 名、カレッジ 1 名が結婚または妊娠によりドロップアウトしたという報告がありました。近年にない中退者続出現象です。反鉱山開発・反プランテーション拡大のキャンペーンで神父たちは忙しく、一方、事務所スタッフも家族や自分の健康問題で、奨学生へのきめ細かな対応ができなかったのでしょうか。

結婚、妊娠は契約違反で奨学金はストップし、学業は中断されます。その後、運よく親族や地域の有力者の支援を得られた場合など、2-3 年遅れて復学、卒業する子どももいます。人生をドロップアウトするわけではないですから、後日そのような知らせを受けた時はほっとします。

なお、この 4 名を除く奨学生（ハイスクール 27 名、カレッジ 13 名）については、前期成績が 75 点の合格ラインを上回り、寮生も父母のもとに戻って期末休暇を過ごしているという報告も届きました。

奨学金支援を開始して 16 年、専門学校、カレッジの専門課程を卒業した子どもは 50 名余り。その中で、定収入を得ているのは、公立の教師や会計士になった 7 名を含めて、約 3 割の 15 名程度と推測しています。

卒業生動向をもっと知りたいと、2008 年に結成された奨学生同窓会の現況を、会計監査役のスノーリアに質問しました。毎年 12 月、同窓会長のドリ（奨学生の国家試験合格第 1 号。現在公立小学校教頭）から案内が来るが、参加者は年々減少して去年は延期になった、100 本で 5 円のバーベキュー竹串作りで日銭を稼いでいる卒業生もいて、同窓会のためにノビシエートまでの片道 80 ペソが払えないということでした。

そんななか、前号で紹介の卒業生から、村の卒業生仲間が 500 ペソずつ出し合って組合店舗を作った。竹串を村人から少し高く買い取り、町で売ることも考えたいという報告がありました。支援による組合作りの難しさは当会も経験済みです。しかし、自分たちで組合を作り貧困脱出をという発想は、高等教育を終了したからできることかもしれません。見守っていききたい動きです。

COWHED カレッジ奨学生・続報

前号で不鮮明だったセラマエの写真を再度入手しました。もうひとりの奨学生、教育学部 1 年のスージーメイの母親エナスさん（ティナラク織手で、創立以来の COWHED メンバー）の話とともに改めてご紹介します。



セラマエ（心理学部 3 年）
身分証明用写真をお借り
しました。

スージーメイは 4 人兄弟の 2 番目で、カレッジ 4 年生の長女と一緒にアパートに住んでいます。アパートやカレッジの掃除で、家賃や学費を安くしてもらっていますが、それでも足りませんでした。HANDS 奨学金をもらえることになり感謝しています。